

課題	<p>空き家は2018年には全国で約849万戸にのぼり、この20年間で約1.5倍と増加傾向にあるものの、以下の課題があり思うように活用が進んでいない。</p> <p>・関係者間での情報連携不足 ・技術面・事業性成立を満たす対応策が限定的 ・空き家問題に対する関心の低さ</p>
目的	<p>良好な街並みを保存しかつ、ストック型住宅市場への転換を実現する</p>
取組内容	<p>①事業ブランドの構築、②ウェブサイトの構築、③ウェブサイトと事業の告知、④モデルルームの運営・イベント実施、⑤地域金融機関との連携強化と関係団体との連携</p>
成果	<p>①②_事業名称「空き家リノベラボ」(ロゴ)を設定。HP・Facebookページを作成することで、戸建てオーナーから事業者まで認知しやすい環境を整備。事業紹介リーフレットを作成。</p> <p>③_主要トピックやイベント開催に合わせた、プレスリリース、Web広告実施。イベント参加や事業HPへの誘引につながった。</p> <p>④_連携パートナー向けのモデルルーム現地見学会や広く一般向けのセミナー+現地見学会形式等のイベントを開催。(イベントは2月末までに2回実施)。事業の意義・具体策を効果的に伝えることが出来た。</p> <p>⑤_空き家活用に取組む企業、行政、業界団体、地域活動団体、地元キーマンにヒアリングを実施。連携パートナーには4社加盟。2022年度以降に連携した取組み実施について継続協議中。</p>

①・②_事業HPの作成/事業紹介リーフレットの作成



▲空き家リノベラボHP



▲事業紹介リーフレット

④_モデルルームでのイベント開催

いずれのイベントも参加者の満足度は95%以上、分かりやすさの評価も高かった。参加者は不動産事業関連の企業が多く、連携パートナー発掘につながった。

■2022/2/3開催(現地またはオンライン参加)

- ・登壇者: 東急(株)(連携パートナー)、(株)エンジョイワークス(空き家リノベラボ協働事務局)、Jam.
- ・構成: セミナーパート(空き家活用に役立つサービス・事例紹介)、クロストーク、現地見学会
- ・参加人数: 現地計21人(定員計30人)/オンライン最大同時接続数18人

■2022/2/23開催(現地またはオンライン参加)

- ・登壇者: omusubi不動産(連携パートナー)、(株)エンジョイワークス、Jam.
- ・構成: セミナーパート(各社の事業紹介)、クロストーク
- ・参加人数: 現地計10人(定員10人)/オンライン最大同時接続数44人

⑤_地域金融機関との連携強化と関係団体との連携

- ・連携パートナー(計4社): 東急(株)(住まいと暮らしのコンシェルジュ)/(一社)耐震住宅100%実行委員会/omusubi不動産/三茶ワークカンパニー(株)
- ・不動産事業者団体へのアプローチ: 宅建協会大田区支部、世田谷区支部(予定)との情報交換により、不動産事業者への効果的な普及策を検討。
- ・地域独自の団体へのアプローチ: (一財)世田谷トラストまちづくりと意見交換。イベントの協力、さらには事業連携を目指し、継続的に協議を実施。
- ・地域金融機関との連携: 地域金融機関が不動産事業者を通じて、情報提供を受けることとした。(例:城南信用金庫)ファイナンスの仕組み構築については一定の期間がかかる見込みであるが、事例を題材に継続的な検討を進める。



▲2022/2/3開催イベントの様子



▲2022/2/23開催イベントの様子